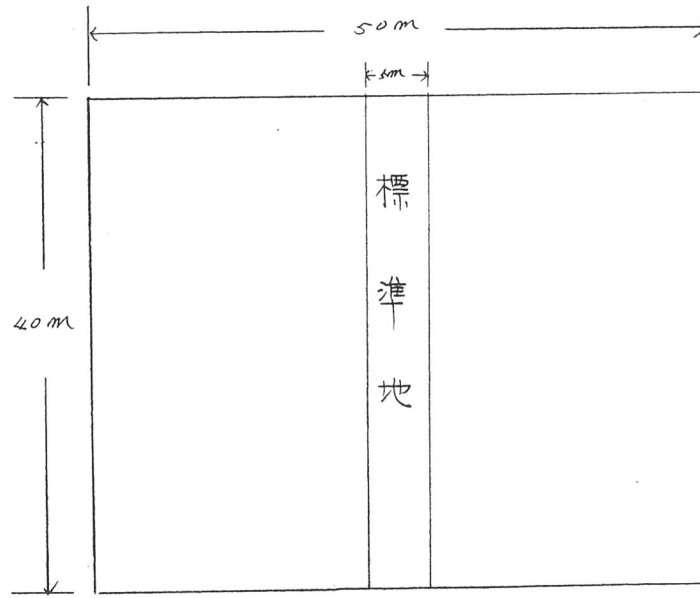


試験地設定図 0.20 ha.

シオツ林分更新育成試験



状 況 写 真

区 分 指 示

延岡 営林署

(様式6)



混合林区 本数調整及び樹植栽 (ツツ 300本・0.25ha)

状 況 写 真

区 分	指 示
-----	-----

延岡 営林署

(様 式 6)



山引草の状態



植付の状態



植付の状態

課題	継続・新規別		担 当 課	開 発 箇 所	延 岡	期 間
	継続					
	経常・特別別		造 林 課			
ツォツ更新林分育成試験		指示・自主別		指示		昭和 61 年度 ~ 昭和 66 年度
全 体 計 画		実 施 報 告		昭和 62 年度実施計画		評価および普及計画
		昭和61年度までの実施経過を記入のこと		昭和 62 年度実施結果を記入のこと		
1. 試験区の設定 2. 混合林区(樹下植栽)の本数調整(立木) 3. 生長量調査 4. 雑樹発生調査 5. 種子結実豊凶調査 6. 林内照度調査	1. 試験区の設定 4区画 2. 雑樹発生調査 皆伐放置区 保育施業区 立木保存区 3. 生長量調査 皆伐放置区 保育施業区 立木保存区 4. 下刈 保育施業区 5. ツォツ結実調査 6. 試験区立木調査 7. 本数調整 8. 樹下植栽	1. 昭和 62. 6, 12 月 調査 (本/HA) 成長量調査 プロット 雑樹発生調査 根元径(cm) 高さ(cm) No.1. 皆伐放置区 19,750 8 28~29 No.2. 保育施業区 20,000 10 21~101 No.4. 立木保存区 21,700 8 28~220 (→ 6月調査)	1. 試験地調査 1. 雑樹発生調査 2. 成長量調査 3. 種子結実豊凶調査 4. 林内照度調査 (変更計画) 1. 樹下植栽区立木のまき枯死 2. 試験区外からの山引き(300本) 3. 樹下植栽区へ植栽(300本)			
		(変更計画) 1. 樹下植栽区立木のまき枯死 林内照度 26%以上を計画 2. 試験区外からの山引き実施 300本 3. 樹下植栽区へ植栽 300本 (昭和 62. 4, 300本植栽済)				

試験経過記録

分指示

延岡 宮林著

(様式4)~1

課題

ツカツ林分更新育成試験

1. 昭和60年10月試験地を設定する。

No.1. 皆伐放置区 0.20 HA

No.2. 皆伐保育施業区 0.20 "

No.3. 樹下植栽区 0.28 "

No.4. 立木保存区 0.20 "

2. 生長量調査及び雑樹発生調査

	標準地 面積 (HA)	根元径 (cm)		樹高 (cm)		HA別雑樹発生本数 (本)		備考	700㎡ 面積 (HA)
		S61.7	S62.	S61.7	S62.	S61.	S62.		
No.1. 皆伐放置区	0.02	7	8	48	64	16,650	19,750	S62. 12月調査	0.20
No.2. 皆伐保育施業区	0.02	8	10	53	65	47,500	53,000	S62. 10月調査	0.20
No.3. 樹下植栽区	0.08	-	5	-	42	-	-	S62. 3月植付時、8月調査 雑樹発生、S62. 6月調査	0.28
No.4. 立木保存区	0.02		17		197		21,700	生長量 S62. 10月 "	0.20

3. 樹下植栽区

(S61年度実施内容)

立木本数調整 { 調整前 502本, 植栽 300本 (1071本/HA)

(S62年度実施内容)

立木本数を枯らし (林内照度26%以上を計画), 山引き苗300本植栽. S61.62年度計 600本 (2,143本/HA)

4. 林内照度調査 (S62.7調査)

樹下植栽区 8% 立木保存区 10%.

5. 考察

雑樹の発生調査を12月に実施したが、落葉ありため、特に立木保存区では、調査不確実性がたつた。

今後には雑樹の本数調整と、下刈の要否及び回数、必要照度との関係で調査する。

林内照度については、26%以上を計画した。

記載事項

- 調査結果及び考察を記入する
- 状況写真は別紙整理する

昭和63年度技術開発実施報告書

様式 2

課題	広葉樹用材林育成技術体系の確立 (シオジ天然更新育成試験)		継続・新規別	継続	担当課	新画課 造林課	開発箇所	延岡営林署	期間	昭和 63 年度 ~ 平成 63 年度
			経常・特別別	経常						
			指示・自主別	指示						
全 体 計 画		実 施 報 告		昭 和 63 年度実施結果を記入のこと		昭 和 63 年度実施計画		評価および普及計画		
1. 試験地設定 (1) 各試験区の区画 (2) 混交林区の本数調査 2. 保育方法別施業 3. 調査事項 (1) 成立本数調査 (2) 稚樹発生状況調査 (3) 生長量調査 (4) 種子結実豊凶調査 (5) 林内相対照度調査 (6) 虫害被害調査		1. 試験地設定 (昭和61年度) ア. 場所 夏木国有林5い林小班 1. 面積 0.88ha 2. 稚樹発生調査 ア. 皆伐放置区 - 16,650本/ha 1. 保育施業区 - 37,500本/ha 3. 生長量調査 ア. 皆伐放置区 - 根元径 7mm 樹高 47.5cm 1. 保育施業区 - 根元径 8mm 樹高 53.1cm 4. 下刈 (保育施業区) 5. 種子結実調査 S: 61 ~ 大凶 S: 62 ~ 大凶 6. 林内照度調査 (S62.7 調査) 樹下植栽区 8% 上木保存区 10% 7. 対照区、本数調整区の立木調査 8. 本数調整区の本数調整及び樹下植栽 (変更計画) 1. 樹下植栽区立木のまき枯らし 林内照度 26%以上を計画 2. 試験区外からの山引き実施 300本 3. 樹下植栽区へ植栽 300本 (S62.4 300本植栽済)		1. 調査事項 (1) 稚樹発生及び生長量 ア. 皆伐放置区 1. 保育施業区 2. 対照区 (2) 種子結実調査 昭和63年度 凶 (3) 相対照度 昭和63年11月 樹下植栽区 32% 対照区 42% (4) 樹冠配置調査 立木保存区の樹冠配置 (5) TR率及び形状比較調査 山引苗と樹下植栽苗の比較 2. 山引苗採取 100本山引き 移植 3. 保育 下刈(全刈) - 保育施業区 S: 61 ~ S: 63年度		1. 稚樹本数調査及び生長量調査 (1) 皆伐放置区 (2) 保育施業区 (3) 上木保存区 (対照区) 2. 下刈 (1) 保育施業区 (2) 皆伐跡地新植区 3. シオジ種子結実調査 (1) 上木保存区 4. 受光伐 (1) 樹下植栽区 5. 林内照度調査 (1) 樹下植栽区 (2) 上木保存区				

課題

広葉樹用材林育成技術体系の確立 (シオジ天然更新育成試験)

1. はじめに

シオジの天然更新の施業方法を確立するための基礎資料を収集する試験を試みた。

2. 試験地の設定

(1) 設定

昭和61年度

(2) 場所

大分県南海部郡宇目町夏木国有林 5林班い小班

(3) 面積

0.88ha

(4) 地況

ア. プロット Ⅵ1-2 (5林班り小班内 旧い小班)

標高 1,000m方位N 傾斜急 土壌型BD-d

イ. プロット Ⅵ3 (5林班に小班)

標高 800m方位N 傾斜急 土壌型BD-d

ウ. プロット Ⅵ4 (5林班い小班)

標高 1,000m方位N 傾斜急 土壌型BD-d

(5) 林況

ア. プロット Ⅵ1-2

伐採跡地

伐採前の林況 ツガ、シオジ、その他広葉樹 100年生、ha当たり 280㎡

イ. プロット Ⅵ3

ツガ、シオジ、その他広葉樹 100年生、ha当たり 230㎡

ウ. プロット Ⅵ4

ツガ、シオジ、その他広葉樹 100年生、ha当たり 280㎡

(6) 設定方法

ア. プロット Ⅵ1 (皆伐跡地、無地拵、無下刈区)

面積 0.20ha

40m×50mのプロットを設定し、中心に40m×5mの面積200㎡の標準地を設けた。

イ. プロット Ⅵ2 (皆伐跡地、無地拵、保育施業区)

面積 0.20ha

40m×50mのプロットを設定し、中心に40m×5mの標準地を設けた。

ウ. プロット Ⅵ3 (樹下植栽区)

面積 0.28ha

設定前の上木502本、受光伐176本、現在本数326本、樹下植栽300本

エ. プロット Ⅵ4 (対照区)

面積 0.20ha

40m×50mのプロットを設定し、中心に40m×5mの標準地を設けた。

図-1 試験地設定図

